

---

# しりとり。

由加 しい

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

しりとり。

### 【Nコード】

N7317Z

### 【作者名】

由加 しい

### 【あらすじ】

誰かの背中を自分が追い、そんな自分の背中を誰かが追う。まるでしりとりのように終わりが来るまで続いていく。人生や青春はたぶんそういつもの。

## 開始（前書き）

初投稿作品です。

何かとよろしくお願いします。

## 開始

桜の花が散り、木々に緑が目立ち始めた5月。暦上では「立夏」と呼ばれ、夏の始まりとされているが、まだ肌寒い。

また、この時期の全国のほとんどの学校は新入生が周りの環境に慣れ、新入生勧誘のシーズンも終わり落ち着きを取り戻す。私立桐竹高等学校もそんな学校のひとつだ。

桐竹高校は、都内にあるなかなかの進学率を誇る新学校である。校名が人形浄瑠璃の名家である「桐竹家」に由来しているからなのか、生徒の自主性を重んじる校風からなのか、部活や同好会特に文化系の部活や同好会が多い。吹奏楽部からオカルト研究同好会まで網羅している。

それゆえ部活の新入生勧誘は、もうお祭り騒ぎである。そんな賑やかな時期が過ぎ、静かになった廊下を部室に向かって歩く祇条梨斗（ていりょうりくと）の足取りは重かった。

なぜなら、職員室で担任の池代英樹（いけしろひでき） 通称「イケシ」 に説教をされていたからだ。

池代は学校内で厳しいと有名な中年の大柄な先生である。担当教科は数学、テニス部の顧問をしている。その大きな体から放たれる数々の言葉や、厳しさは生徒たちを恐れさせてきた。

そんな先生に怒られて気分のいい人は、一部を除いていない。自ら怒られるような人は尚更だ。

池代の説教の内容は、  
「俺は魔法を使える。白魔法、黒魔法、時空魔法だ。わかるな。平常点による救済、退学処分、停学処分。お前は成績も素行も悪くはないんだがな。黒魔法と時空魔法は使わせないでくれよ。そもそも

……」  
という感じで、30分も続いた。

上手い事を言おうとしているみたいだが、聞いていてとても恥ず

かしい。

そもそも説教されている原因は、たまたま授業中寝てしまい、たまたま池代に見つかり、たまたま池代の鼻屑にしている野球チームが6連敗中で機嫌がよくなかったからだ。

運が悪い。

普段から運が良いわけじゃないが、今日は一段と運が悪い。

「はあ……。最悪」

嘆息を漏らしながら歩くこと1分。梨斗は目的の部室に到着した。文化系部室<sup>3</sup>。

梨斗の所属する部活は新設で、部員が一年生5人ながらも、どのクラブも欲しがる三階建ての文化系部室棟の一階のこの部屋を、図々しく部室として活動している。

扉を開き、中に入ると他の部員の4人が、

「大変だったな」

「ドンマイ。早く座りなよ」

「イケシとの楽しいお説教タイムはどうだった？」

「ほら、始めようよ」

と四者四様の言葉をかけてきた。

「そう急かすなって。あとお前は励ましの言葉じゃない！ 楽しくなんかないよ」

梨斗が一人の女の子の言葉を指摘をすると、ごめんごめん、とその女の子は頭をさすりながら言った。

「からかうなよな。もう」

鞆を置き、梨斗はソファに力なくへたり込んだ。

そして頬を二度叩き、気合を入れる。

「さあ、やるっか」

大きく間を開けて一言。

「しりとり」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7317z/>

---

しりとり。

2011年12月24日09時48分発行